

どうとくのひろば

こころのひろば ---2

[インタビュー]

社会とつながり、自分らしく
生きる道を見つけるまで
葉っぱ切り絵アーティスト リト

見てわかる! 道徳 ---4

「規則の尊重」(小学校)
「遵法精神、公德心」(中学校)
「よりよく生きる喜び」
越智 貢、上村 崇、奥田 秀巳

実践事例 小学校3年 ---6

共生社会を生きる力を育てる
道徳科の学習
時枝 智美、山本 洋

実践事例 中学校1年 ---10

道徳科における「問題解決的な
学習過程」を生かした授業づくり
小森 彦毅、渡邊 真魚

おさえておきたい! 授業力アップのための
教科書・指導書活用術 小学校編 ---14

「心のベンチ」や「ぐっと深める」の
ページを活用して授業力アップ!
田村 由宏

地球の仲間からのメッセージ ---15

動物園での繁殖と性別判定
長瀬 健二郎



表紙イラスト Kasumi Taoka

日文の Web サイト

日文 🔍



心が動く、その先へ。

日本文教出版



写真 福田 俊介

／／ ところのひろば ／／ ウェルビーイングな社会を創るために

リト 葉っぱ切り絵アーティスト

発達障がい(ADHD)という自身の特性を前向きに受け止め、2020年から葉っぱを使った切り絵の作品を制作しSNSで発表。Instagram約65万、X(旧ツイッター)約22万のフォロワー数を誇る。(2025年9月現在)全国で展覧会を開催し、「リト リーフアート ミュージアム福島」を開館して注目を集めている。



「葉っぱのアクアリウム」 提供：リト@葉っぱ切り絵

らいあったんです。同時にフォロワー数も2000から8000ぐらいにまで増えて、やっとバズったと思いました。SNSでバズることを目指して、試行錯誤していたので、この方向性で正しかったと少し安心しました。

■ やっとご自身が目指していたところにたどりついたわけですね。

でも、そこからが辛かったです。だって、次に作る作品のハードルが上がるわけですから。それに、まだ仕事につながったわけじゃなかったの。

「葉っぱのアクアリウム」発表後の1、2か月後にもう1回バズったんですが、そこでやっと葉っぱ切り絵アーティストとして生きていけると確信することができました。

■ 作品のモチーフはかわいい動物が多いですね。

モチーフは最初から動物だったわけではなく、ファンの方々の反応を見ながら、最終的に動物に落ち着いた感じですね。そこから徐々に僕が「葉っぱの中に優しい世界を作る人」として認識されてきて、自分の方向性が少しずつ見えてきたんです。この世界観が自分に向いているのかなと思うようになりました。

作品のモチーフは、自己満足で終わらないよう、常に見る人のことを思い浮かべながら、どんな人を楽しんでもらえるかを考えて決めています。

■ 葉っぱ切り絵アーティストとして活動する中で、自分自身にどんな変化を感じていますか？

会社員の頃は、「すみません。」が口癖でした。で

も、今は自分の好きなことをして、ファンの方々に「ありがとう。」と言われるようになったので、こんな幸せなことはないと思っています。

学生時代や会社員の頃の自分は、どこか自分に自信がもてない宙ぶらりんな存在でした。でも、葉っぱ切り絵アーティストの肩書きができたことで、どこにいても恥ずかしくないと思えるようになりましたね。

■ 現在の活動について、不安やプレッシャーを感じることはありますか？

自信もあるけど、不安も大きいです。僕はSNSでの活動が主戦場なので、新しい

い作品を作り続けるプレッシャーは常にあります。でも、毎日見てくれるファンの期待に応えたいし、SNSは自分のしたことが「いいね」やフォロワー数でダイレクトに見えるので、それが明日へのモチベーションにつながっています。

■ これから取り組みたいことはありますか？

これまで外国での展覧会の開催を目標にしていたが、最近、その考え方に変化が生まれています。

今、日本には多くの外国人観光客が訪れていますよね。なので、どうすれば外国の方々にファンになってもらえるかや「リト リーフ アートミュージアム 福島」まで足を運んでもらえるのかを考えています。

具体的には、桜や浮世絵などの伝統的な要素や漫画のキャラクターなどの文化や風習を作品に取り入れることで、日本の魅力を伝えられたらいいなと思っています。



リト リーフアート ミュージアム福島(福島県) 提供：(株)松屋

日本文教出版『中学道徳 あすを生きる 1』では、リトさんが葉っぱ切り絵アーティストの道を切りひらくまでを描いた教材「葉っぱ切り絵で見えた道」を掲載しています。



《インタビュー》

社会とつながり、自分らしく生きる道を見つけるまで

リトさんが作る葉っぱ切り絵の作品は、その独自の世界観でSNSを中心に注目を集め、多くの人々を魅了しています。リトさんのこれまでの歩みと今後の挑戦についてお話を伺いました。

■ リトさんは、どんな子どもでしたか？

どちらかというと内気な性格でゲームが大好きでした。学校ではゲーム好きな仲間とゲームの話をしていました。学校の成績は普通ぐらいで、スポーツは苦手でしたね。平凡な学生時代だったような気がします。

小学生の頃は、漫画家やゲームクリエイターになりたいと言っていました。でも、高校生ぐらいになると、そういうのは無理だって気づくじゃないですか。とりあえず大学に行ってから考えようと。でも、大学進学後もやりたいことはありませんでした。

■ 大学卒業後、フードサービス関連会社で働き始めたときに、困りごとが出てきた感じですか？

僕は一つのことをやりはじめると、それに集中してしまい、周りが見えなくなるんですよ。例えば、明日の仕込みを始めたら、店が忙しくなっているのに、まだ仕込みをしていて「それは後でいいでしょ。」と言われてはじめて気づくことが日常茶飯事でしたね。

愚痴は言いましたが、うまくいかないのは努力不足や怠けているからだと考えていました。頑張っただけなら相談するのは恥ずかしいと思っていました。周りの人はできていて、学生時代は自分も普通にできていたのにこんなにポンコツだったっけ？みたいな。

頭の中で考えていることと実際の行動との間にギャップがあって。それが結構つらかったですね。

■ 7年間勤めた最初の会社を辞めて、その後、転職を2回されたそうですね。

転職先の上司に「頑張っているのは分かるけど、何

が難しいの？ 私たちに問題があるなら教えて。」と言われて。だけど、なぜ自分が仕事でうまくいかないのか分からず、「頑張ります。」としか言えなくて。それから周りが冷たい態度になるのが耐えられませんでした。

きっと自分と同じような人がいると思い、ネットで調べたら、発達障がいという言葉を見つけて。その後、病院で発達障がい(ADHD)と診断を受け、その診断を理由に退職しました。

長年のもやもやが解消され、仕事ができない原因が脳の特性なら仕方ないと思いました。

■ 退職後はどうしていたのですか？

ハローワークで障がい者雇用枠の求人を探したものの数がとても少なくて。いろいろと調べ、行政などの相談窓口にも行きましたが、就職は難しそうで自分でどうにかするしかないと思いました。振り返ると、今までやりたいこともなく、ただ流されるままの人生でした。だから、ここから気持ちを切り替えて、自分で選択して生きていきたいという思いもありました。

■ 作品「葉っぱのアクアリウム」で注目を集めたときのことを教えてください。

当時、貯金は2万円ほどで、親のおかげで家にいられたけど、焦っていました。SNSの発信についても、やれることは全部やるしかないと思っていました。

この作品は、葉っぱ切り絵を始めて8か月目ぐらいに発表しました。これまでの作品で最も多かった「いいね」は1000ぐらいだったのが、この作品は2万ぐ

道徳の学習における応用編です。基本となる22の内容項目は、それぞれ独立しているわけではありません。それらは密接に関わり合い、また競合する場合があります。ここでは、内容項目間の関係を分かりやすく解説し、道徳的価値の本質やおもしろさに迫ります。

監修：広島大学名誉教授 越智 貢 共著：福山平成大学教授 上村 崇
北海道教育大学准教授 奥田 秀巳

今回のテーマ

「規則の尊重」(小学校)
「遵法精神、公德心」(中学校)
「よりよく生きる喜び」

今回のテーマも読者からのリクエストです。今号の連載は、子どもたちにそれらのテーマについて深く考えさせるにはどうしたらよいか、という読者の悩みに応えようとしたものです。なお、「規則の尊重」は『どうとくのひろば』23号、32号の本連載でも扱われています。参照いただければ幸いです。

「見てわかる！道徳」では取り上げる内容項目を募集中です！

取り上げてほしい内容項目があれば、右の二次元コードからご応募ください。



「本当にこれでよいのだろうか」と、迷ったり、心が揺らいだりする瞬間は、誰にでもあるはずです。よりよく生きたいと願うからこそ、私たちは日々の暮らしの中で、何をなすべきか悩み、立ち止まるのです。今回はこうした「迷い」や心の「揺らぎ」が、「よりよく生きる」こととどのように関わっているのか、考えてみましょう。

「よい」という言葉がさすもの

「よりよく生きる」ということ、これが道徳教育の根幹をなす理念であることは間違いありません。しかし、その言葉がさすものを説明することは誰にとっても容易なことではないでしょう。なぜなら「よい」という言葉がさすものは、さまざまな文脈によって異なるからです。

例えば、ある人にとっての「よい」が、別の人にとってはそうではないかもしれません。あるいは行為の意図がよくても、結果が望ましいもの、つまり「よい」結果とならないこともあるでしょう。個人と集団、短期的視点と長期的視点によっても、「よい」がさすものは変わってくるはずです。このように「よい」とい

う言葉には文脈に依存する性質があるために、「よりよく生きる」とは何かを説明するのは容易ではないのです。

迷い、揺らぐ中で価値を問い直す

よりよく生きるために考え、行為することは、経験を重ねた大人であっても容易ではありません。子どもの将来を思って厳しく叱った後で、「これでよかったのか」と自らに問うた経験のある人は少なくないでしょう。相手のためと信じて行ったことが、結果として相手を傷つけてしまったのではないかという迷いが心をよぎるからです。

このような葛藤に直面したとき、私たちは「これでよかったのか」「なぜ、このように行動したのか」と自問自答します。「よりよく生きる」ということには、こうした「迷い」や心の「揺らぎ」のなかで、文脈に応じて自己の選択や行為を問い直すという側面が常に含まれているのです。

私たちの生活を支えるものとして多くの人が正しいと考える規則や義務でさえ、迷いや揺らぎの中で見直されることがあります。例えば、私たちは「きまりを

守る」ことを、よりよく生きるうえで大切な価値として受け入れています。しかし、現実にはきまりを守ることが常に優先されるべきだとは言えないでしょう。けがをして困っている友人を助けるために始業時間に遅刻するといった緊急避難の状況は、「きまりを守る」という価値が絶対的とは限らないのではないかと私たちに迫ります。

「社会」や「公共」を問い直す

あるいは、道徳の授業でしばしば扱われる「社会の一員として行動する」「公共のために尽くす」といった価値についても、同様の問い直しを避けることはできません。これらの言葉は一見正しく響きますが、「社会」や「公共」に誰を含み、誰を含まないのかが十分に問われないまま使われていることが少なくありません。クラスで多数決の名のもとに、個人の意見が押しつぶされる状況を目にしたとき、沈黙しながらも「これでよかったのか」と疑問を抱く子どももいるはずです。こうした状況は、道徳で語られる「公」の概念が、ときに人を排除する働きを持ちうることを私たちに気づかせます。道徳教育における「公德心」とい

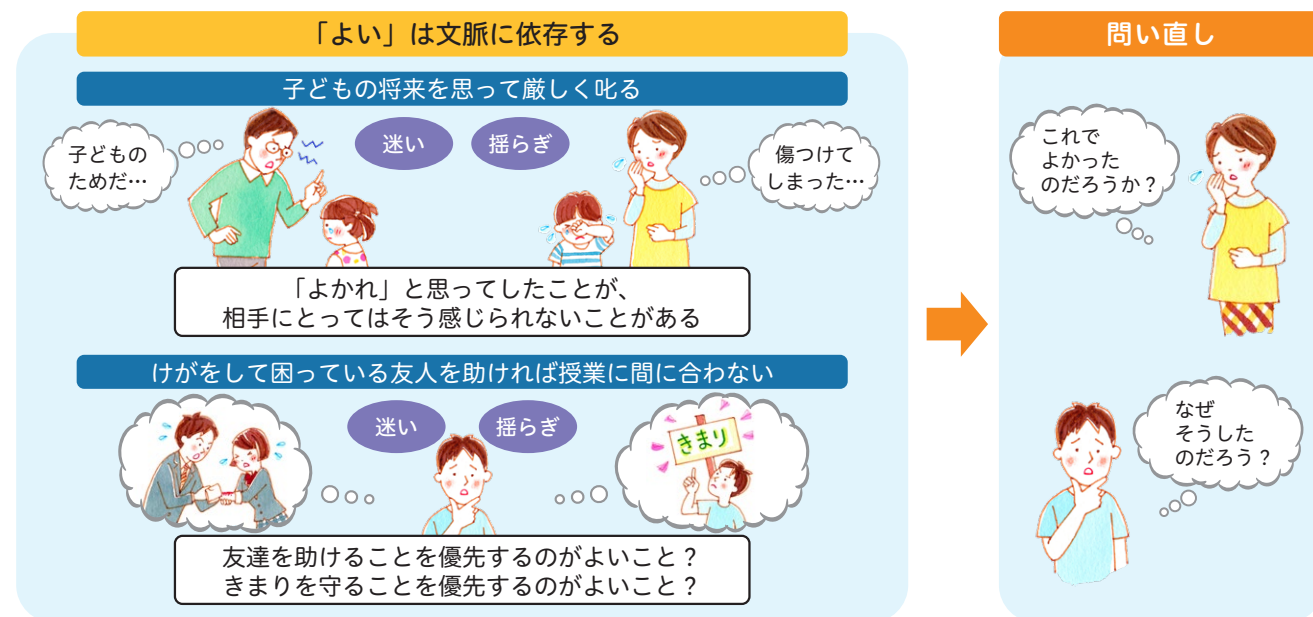
う価値は、「公共や社会とは誰のことか」「そこに含まれない人がいるとしたら、自分はどうか行動するか」といった問い直しに結び付いているのです。

「迷い」や「揺らぎ」と向き合う

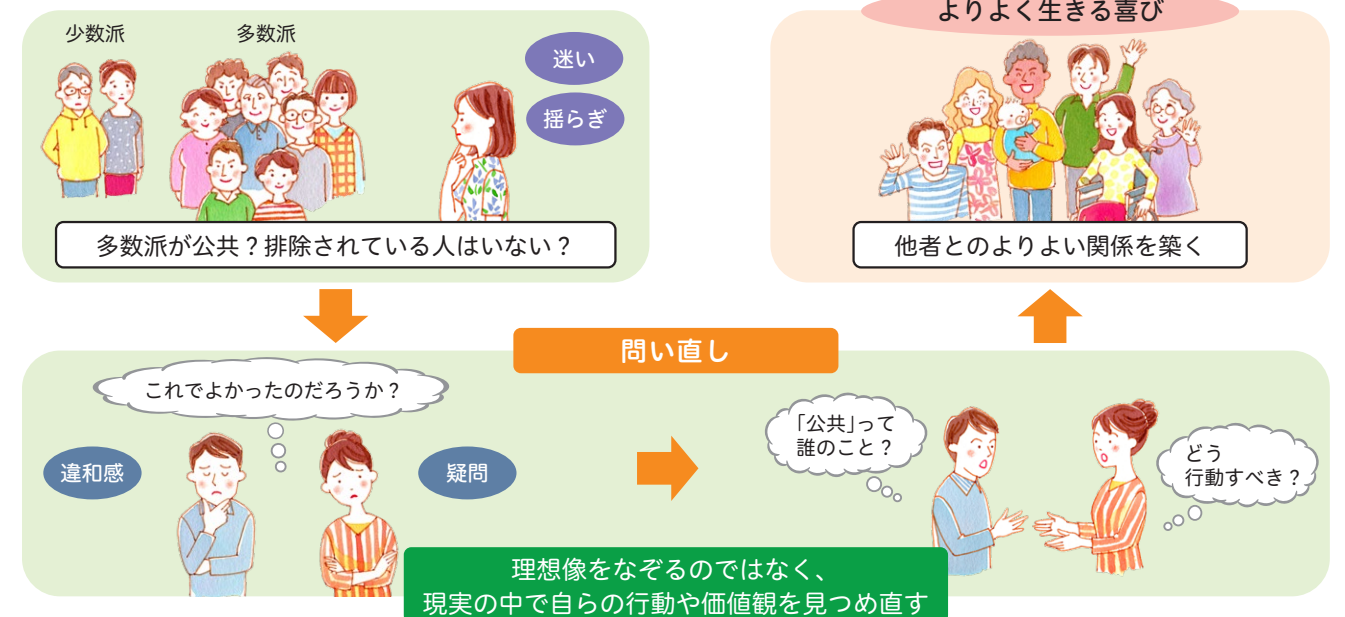
こうした「迷い」や「揺らぎ」は、道徳に関する問いの入り口でもあります。「正しい」とされている価値に違和感や疑問を覚えたとき、人はその意味をより深く考えるようになるからです。重要なのは、その問いが自分自身の経験や感情に根ざして生まれるという点にあります。大切とされる価値を自分のこととして問い直すことが、よりよく生きることにについて考える出発点になるのです。

「よりよく生きる」ことは、理想像をなぞることではありません。それは、むしろ現実の中で自らの行動や価値観を見つめ直す営みの中にあると言えるべきでしょう。迷いや揺らぎを伴いながら、自ら考えて選び取った行為が、他者とよりよい関係を築き、自ら納得できるものとなったとき、私たちは「よりよく生きている」というたしかな「喜び」を感じるのです。

「よい」を問い直す



「社会／公共」を問い直す



小学校
3 年共生社会を生きる力を育てる
道徳科の学習

学校法人別府大学明星小学校 時枝 智美



教材名 「同じなかまだから」（『小学道徳 生きる力 3』日本文芸出版）

内容項目 C「よりよい学校生活、集団生活の充実」

主題名 みんななかま

ねらい 自分の個性を生かしながら、みんなで楽しく生活しようとするよさを自覚し、協力して楽しい学級をつくろうとする態度を育てる。

教材あらすじ 運動会で行われる三人一組の競技「台風の目」。何をするにも遅い光夫は、練習の日に指をけがしてしまふ。勝とうとするあまり、光夫を休ませようとするひろしに、とも子は「まちがっていると思うの。」と言います。

1 はじめに—共生社会を生きる力とは—

現在、グローバル化の進展に伴い、世界は多文化共生社会に移行し、多様な価値観をもつ人々が複雑に絡み合いながら共に暮らす社会へと変化しています。学校現場でも、多様な背景をもつ児童と一緒に学ぶことがあたりまえの状況です。このような中で、個々がよりよい生き方を追究しつつ、共によりよい社会を創造する力、つまり「共生社会を生きる力（共生力）」の重要性が高まっています。

「共生力」の育成のために学級活動や人権教育、生活指導を通じて日々指導しています。しかし、それだけでは十分とは言えません。年間指導計画に基づく計画的かつ意図的な指導を行う際、道徳科の役割は非常に重要です。道徳科を通じて「共生社会を生きる力」となる「道徳性」および「道徳的資質・能力」を育成することが必要であると考えています。

2 ねらいとする価値と教材について

「共生力」としての「道徳性」および「道徳的資質・能力」に関連する内容項目として、C「よりよい学校生活、集団生活の充実」が挙げられます。今回は、教材「同じなかまだから」を選び、主題名は「みんななかま」、ねらいは「自分の個性を生かしながら、みんなで楽しく生活しようとするよさを自覚し、協力して楽

しい学級をつくろうとする態度を育てる。」としました。

教材は、クラスで起こりがちな出来事を題材にした内容です。とも子とひろしと光夫のグループは、運動会で行われる三人一組の競技「台風の目」に向けて練習を頑張りますが、何をするのも遅い光夫がいるせいで、クラスはなかなか勝てません。練習の日に指をけがして登校した光夫を見て、ひろしは「休んだほうがいいんじゃないか。」と言います。しかし、とも子は転校したよし子から方言のせいで新しい学校で仲間外れになっているという悲しい手紙をもらったことと重ね、光夫を仲間外れにしようとするひろしに「まちがっていると思うの。」と言います。3人は作戦を考え直し、励まし合って練習に臨みます。

3 児童の実態

本学級の児童は、仲のよい友達と上手に関わることは得意ですが、苦手な児童に対しては「関わらない」「近づかない」という排他的な態度を示す傾向があります。この「自分が受け入れがたいものを排除する」という風潮は、本学級の児童だけでなく、現代社会にも見られる風潮ではないでしょうか。寛容さや謙虚な心、話し合いで折り合いをつける、安易に我慢するのではなく相互に理解し合うなど、一見手間に思えることが、他者との共生には必要だと感じます。この排他的な風潮をまずは学級という小さな社会から変えていきたいと思っています。

4 指導の実際について

(1) 導入の場面

導入では、事前に実施した選択式および記述式のアンケート結果を提示し、学級の実態を共有しました。「今の学級の友達が好きですか？」の問いにはほとんどの児童が「とても好き」と答えているものの、「まあまあ好き」と答えた児童も2名いました。その理由としては、「優しい人もいるけど、暴言を吐く人や暴力をふるう人がいるから」というものでした。

授業では、このことを取り上げ、「これって、優しい人は好きだけど、暴言を吐く人や暴力をふるう人は嫌いということ？」と問いかけました。児童は、「そこまでは思っていないよ。人は、いいときも悪いときもあるから。」と言っていました。この言葉から、進んで友達のように目を向けることができるようになったことをうれしく思うのと同時に、児童がよく使う「優しい」が言葉だけの気もしました。そこで、「優しいってどういうこと？」と投げかけ、優しさを具体的な態度や行動として考えることができるように指導しました。

(2) 展開の場面

展開では、教材を読み、登場人物の気持ちに共感しながら、めあて「『優しい』ってどういうことか考えよう。」について考えていきました。

共生社会では自分を大事にすることと同時に、他の人も大事にすることが大切です。「暴言・暴力は嫌だ。」と思うことは当然ですが、それを理由に排除してよいかというそうではありません。教材に出てくるように、ひろしの「勝負には勝ちたい。何をするのも遅い

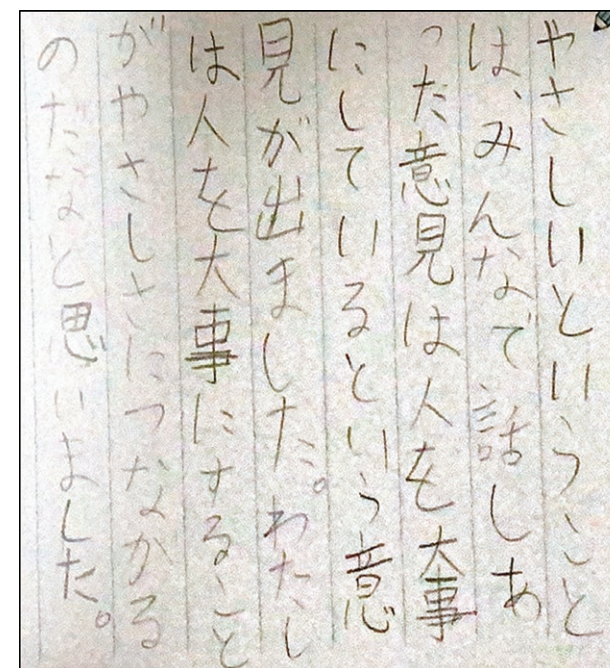


光夫のせいで負けてしまい嫌だ。」という気持ちは分かりますが、だからと言って「休んだほうがいいんじゃないか。」と言って仲間外れにすることは許されることではありません。

では、「どうすればよいのか。どうありたいのか。」を児童には、しっかりと考えてほしいと思いました。そこで展開では、「仲間外れはなぜしてはいけないのか。」についてグループで話し合いました。

(3) 終末の場面

本時は「『優しい』ってどういうことか考えよう。」について考える学習だったので、終末では、学習を通して「優しい」とはどういうことなのかを考え、ワークシートにまとめ、学級全体で共有しました。



上の児童のワークシートには、「人を大事にすることがやさしさにつながる」という記述があります。

実は、これまでの本児の価値観から考えると、この考えに至るまでにはかなりの葛藤があったと推察されます。

しかし、話し合いを通して他者の意見に触れ、自分の考え方（価値観・生き方）が磨かれたのだと思います。これこそが共生社会のよさを具現的に表していると感じました。

足立区立栗原小学校校長
山本 洋 先生の



令和5年6月に閣議決定された「教育振興基本計画」では、その柱の一つとして「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が挙げられています。これにはまさに、一人一人を大切に「共生社会を生きる力（共生力）」を育成すること」も含まれます。「いじめ」という事象のみに焦点化することなく、児童の「共生力の育成」に着手した本事例は、その趣旨を十分に生かしているといえます。

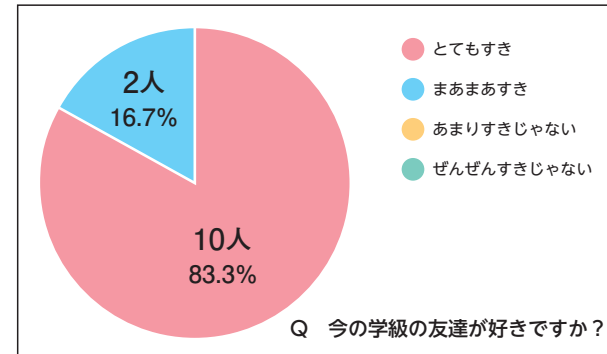
導入の児童のアンケート結果の提示では、ともすると多数派の意見を取り上げがちですが、今回は少数派の意見を掘り下げて問題提起を行い、本時のめあてを提示しています。このことにより児童は本時のめあてを具体的なイメージで捉えることができると同時に、自分ごととして考えることができるようになります。そのためにも、教師は事前にアンケート結果をよく吟味しておく必要があります。

学習活動

◎→中心発問 ○→基本発問 ☆→予想される児童の反応

1 本時の学習内容を知る。

○アンケート結果を見て、考えたことについて話し合う。



○本時のめあてを知る。

「優しい」ってどういうことか考えよう。

☆人を傷つけないってことかな。

2 教材「同じなかまたち」を読み、話し合う。

○ひろしはどんな気持ちで光夫に「休んだほうがいいんじゃないか。」と言ったのでしょうか。

☆遅いから、チームに入れたくない。

☆何をしても遅くて嫌。

☆負けるのが嫌。

○とも子はどんな気持ちで思い切ってひろしに「まちがっていると思うの。」と言ったのでしょうか。

☆仲間外れはよくない。注意しよう。

☆かわいそうだから、助けたい。

☆転校したよし子さんが、仲間外れにされて悲しんでいるが、それと同じことをしている。

☆勝手に決めている。

○「仲間外れ」は、なぜやってはいけないのでしょうか。

☆この種目は、チームでやることやみんなで協力することが大事だから。

☆無理矢理させるのは傷つくし、嫌だから。

☆「～から」「～だから」と理由をつけて、人を選ぶのは平等ではないから。

☆ふざけるからとか、嫌なことをするからというのも差別をしてよい理由にはならないから。

☆差別と同じだから。

☆人を大事にしていないから。

3 本時の学習で考えたことをまとめる。

○「優しい」ってどういうことでしょうか。

☆優しいということは人を大事にしているということ。

指導上の留意点

- ・学級の実態を把握するために、事前にアンケートをとっておく。（選択・記述式）
- ・記述内容で、本時のねらいに関わるものを取り上げ、児童の思いをくみとることで、児童が主体的に本時の学習に取り組むことができるようにする。

やさしい人もいけど、
ぼう言をはく人や
ぼう力をふるう人が
いる

友だちにやさしい
ときはすき
友だちにやさしく
ないときはきらい

- ・「友達に優しい人（とき）は好きだけど、暴言を吐く人（とき）や暴力をふるう人（とき）は嫌いということ？」と投げかけ、本時のめあてにつなぐ。

- ・教師の読み聞かせによって、教材提示を行う。
- ・児童が気になった場面や感想を出し合い、それをもとに本時で考えることを焦点化していく。
- ・差別をする側（ひろし）、される側（よし子、光夫は自覚がない）、傍観者側（とも子）の心情に共感することで、それぞれの立場から差別について考えることができるようにする。

- ・本時で考える「優しさ」の対極として、教材文や児童の発言に出てきた「仲間外れ」をあげ、グループで話し合うことで、多様な考えに触れることができるようにする。話し合ったことは、グループごとにホワイトボードにまとめて発表し、全体で共有できるようにする。
- ・抽象的な言葉については、具体的な行為や事例をあげるように促し、言葉だけでなく明確なイメージをもって態度や生き方につなげていくことができるようにする。

- ・本時のめあてについて考えたことをワークシート（道徳ノート）にまとめ、全体で話し合いながら共有する。



5 授業を終えて

本教材は、日本文教出版の教科書でユニット単元「人とかかわり②（いじめをなくすために）」の教材の一つとして掲載されています。本教材の後に、いじめに気づき、いじめを許さない態度を育てることをねらったコラム「心のベンチ」と友達の筆箱を砂場に埋めるというドッキリを仕掛けて盛り上げようとする教材「たからさがし」（A「善悪の判断、自律、自由と責任」）が系統的に配列されています。

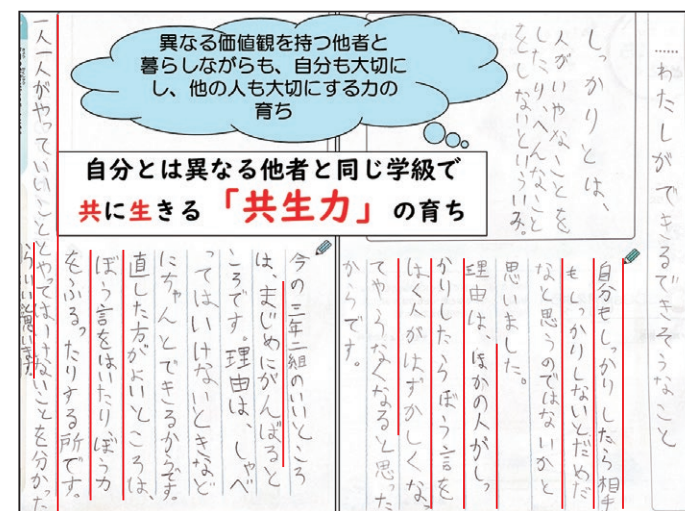
私は、この3つのユニット教材を、いじめではなく、共生というテーマで指導しましたが、関連する内

容項目を継続的に学ぶよさを実感しました。

左下のワークシートは、先ほどの児童の「たからさがし」の学習後のものです。「同じなかまたち」を学習した後に比べて、「共生」についての考えが深まっただけでなく、考え続けている姿勢もうかがえます。

今回の実践を通して感じたことを2点に整理すると、1点目は、単元（ユニット）としての道徳授業の構成のよさです。今回のようなユニット単元では、児童の思考が継続し、深まり広がる様子がみえました。「1時間1内容項目」「いろいろな内容項目を全体に散りばめた教材配列」でもよいのですが、道徳も他教科のように単元を組んで指導することがさらに増えてもよいのではないかと考えています。

2点目は、「共生」についてです。最初に述べたように「共生力」は、これからの社会を生きる子どもたちにとって大切な力です。受け入れ難い人を排除するのでも、ただ我慢するのでもなく、みんなが幸せになれるような社会を築く力をまずは小学校の学級から育てていきたいと考えます。現行の学習指導要領の内容項目には「共生力」という言葉はありませんが、この力は今後さらに必要な力になるでしょう。関連する内容項目を組み合わせ、今後も指導していきたいと考えています。



足立区立栗原小学校校長

山本 洋 先生の

ここに
フォーカス!



今回は、内容項目のC「公正、公平、社会正義」ではなく、C「よりよい学校生活、集団生活の充実」で本教材を扱っています。「差別の解消」について、「人（他者）を大切にする」というだけにとどまらず、「学級（集団や社会）をよりよくする」という考えにまで広がるとよりよいでしょう。

単元での学習後の児童のワークシートからは「学級をよりよくするために、傍観するのではなく、自らの立場を明らかにしたり、自己の行動を抑制したりしていこう」とする内容が分かります。2つの教材と1つのコラムからなる単元（ユニット）の学習で児童の思考を継続的に掘り下げたことで、教師が育てたい「共生力」について児童自身が深く考えることができたと考えます。児童の実態を基に、教師が指導観を明確にし「教材配列の工夫」や「教材活用の工夫」を考えて挑戦することは、児童の学びの深まりだけでなく、今後の自身の道徳科の授業改善にきっと役立っていくことでしょう。

中学校
1年

道徳科における「問題解決的な学習過程」を生かした授業づくり

～ICTの活用と「道徳ノート」を通して主体的な学びを支える～

横浜市立小山台中学校 小森 彦毅



教材名 「ソウタとミオ」(『中学道徳 あすを生きる 1』 日本文教出版)

内容項目 B「友情、信頼」

主題名 友情の鍵

ねらい 友達を多面的に捉える中で相手のよさを見つけ、高め合う意識をもつことが大切だと自覚し、友達と信頼関係を築こうとする態度を育てる。

教材あらすじ 「僕」(ソウタ)は、同じ卓球部で幼なじみのミオが動画を隠し撮りをしたと疑い、関係が揺らぐも、ミオの真の思いを知り、ミオとの友情を見つめ直す。

1 はじめに

道徳科の学習指導は、学級の指導、指導者の意図、教材の内容、さらには他の教育活動との関連性を踏まえ、柔軟に構想・実施することが求められる。『中学校学習指導要領(平成29年告示)』には、「生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。」と記されている。

さらに、『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編』には、「問題解決的な学習」について、「生徒が学習主題として何らかの問題を自覚し、その解決法についても主体的・能動的に取り組む、考えていくことにより学んでいく学習方法である。(中略)生徒の学習意欲を喚起するとともに、生徒一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決し、よりよく生きていくための資質・能力を養うことができる。」と記されている。

このように、道徳科の授業では、学習活動を通じて生徒が道徳的価値に気づき、自らの生き方を見つめていくことが大切である。横浜市中学校教育研究会道徳

教育部会においても、生徒が主体的に道徳の時間に取り組めるように、図「道徳科の授業の学習指導過程」を基本的な学習指導過程として長年提案・推進してきた。これにより、道徳科の時間が「道徳的価値を自分のものとして考える場」となることを目指している。

2 「問題解決的な学習過程」について

「導入」では、生徒の体験を手がかりに、道徳的価値への気づきを促す発問を行うことが大切である。例えば、体育祭や福祉体験などを振り返り、「友情についてどう考えたか。」「人と接するうえで大切にしたいことは何か。」といった問いかけることで、生徒は本時に考えるべき道徳的問題を意識しやすくなる。こうした気づきを土台に、「展開」に進む前に「本時の学習課題」を明確にする。学習課題は、生徒に共通する問題意識から導き出されるものであり、道徳の授業における見通しとなる。学習課題が生徒自身の実感や気づきを基にしたものであれば、生徒はそれを自らの問題として主体的に取り組むことができる。また、授業者にとっても、「教材を通して何を学ばせるか」という授業の方向性が明確になる。

「展開(前段)」では、教材の登場人物の思いや行動に共感し、それらを検討することで、道徳的価値を具体的に理解させる。この段階では、「教材で学んだこと」を捉えさせることがねらいである。

「展開(後段)」では、教材から得た価値をもとに、生徒自身の生活や考え方を振り返らせる。「教材で学んだことを通して今の自分はどうか。」といった発問を通して、生徒自身の課題を見つめ直し、道徳的価値を自覚しながら考えを深めていくことができる。

「終末」では、授業の余韻を残しながら、生徒が価値を自己の成長につなげられるような工夫が求められる。例えば、教師による体験談や、ことわざ、生徒の作文を紹介しながら、授業のねらいとした道徳的価値について、「自分もこうありたい。」と思えるような発問を行うことが効果的である。特に、教師による実体

験や日常のエピソードは、生徒の関心を引きやすく、道徳的価値への理解を深めるうえで有効である。ただし、この段階で重要なのは、道徳的価値を一方向的に押しつけるのではなく、生徒が自ら向き合おうとする姿勢を尊重することである。

3 授業における工夫

生徒が主体的に考え、道徳的価値に気づく学びの実現のために、今回はICTの活用や掲示物の工夫を取り入れながら授業づくりを進めた。

「導入」では、事前にGoogleフォームで生徒にアンケートを実施し、クラス全体の考えを可視化することで、クラス全体の傾向や意見を共有できるようにした。生徒自身が「自分たちの意見が授業に反映されている。」と感ずることで、学びへの関心や当事者意識が高まりやすくなる。道徳科の授業では、導入の工夫

が授業全体の流れを左右するといっても過言ではない。特に、教材と生徒の身近な体験や日常生活をつなぐような導入を設定することで、生徒は道徳的価値を自分ごととして捉えやすくなり、考えの深まりにつながる。

また、教室内に授業で作成・使用した掲示物を設置し、学んだことや話し合った内容を残すことで、学びの足跡を可視化し、次の授業への意欲を高める工夫も行っている。授業後も掲示物を通して他の生徒の意見を読み直したり、自分の考えと比較したりすることで、新たな気づきが生まれ、道徳的価値への理解がさらに深まる場面が見られる。このような掲示物の工夫は、単に学びの継続性を高めるだけでなく、教室全体に道徳的な雰囲気や醸成する効果も期待できる。生徒にとって、道徳的価値について考え続ける空間が身近にあることは、日常生活の中でも道徳的視点を意識する契機となる。

	学習内容	発問
導入	○「気付く」段階(問題の意識化) 生徒が主題と取り組む意識を高めたり、主題の中心として取り扱う共通の課題を発見させたりして、問題意識をもたせる。	○導入の発問 体験活動等の生徒の体験からの道徳的価値の「気付き」を重視した発問や生活上からの発問。
展開	学習課題の提示と確認【本時の学習課題】 ○「しぼる」段階(問題場面の明確化) ねらいに迫るために、どの場面、どの人物を中心に話し合い、道徳的価値を追求するかを把握させる。 ○「わかる・感じる」段階(道徳的価値の追求) その場面の主人公の動き、行為について話し合い、道徳的価値を追求し、深めさせる。多様な価値観を引き出し、より高い価値を追求させる。	○基本発問1 教材の中心場面を決定し内容を把握し、中心発問に迫る発問。 ○基本発問2(中心発問) 主人公の心の動きなどを把握し、より高い道徳性を求めさせる発問。
	学習課題の解決【教材で学んだこと】 ○「自己を見つめる」段階(道徳的価値の自覚) 前段で話し合った道徳的価値(より高められた見方・考え方)に照らして、現在までの自分の体験などについて振り返らせ、今後の自分の見方・考え方・感じ方についての自覚を深める。	○基本発問3 教材から離れ、自分を振り返り、今後の生活を考えさせる発問。
終末	○「自己を超えようとする」段階(実践への意欲化) 本時のねらいとする道徳的価値を確認させ、子どもの意識の継続を図るとともに、実践への意欲を高める。ただし、行為に結びつけたり、決意表明を強いたりせず、自己を高めようとする意識をもたせるようにする。	○終末の発問 教師の体験談、ことわざ、生徒の作文などを示して、ねらいとする道徳的価値について、自己を高めようとする意識をもたせる発問。

図 「道徳科の授業の学習指導過程(学習指導過程の基本形)」(横浜市中学校教育研究会道徳教育部会)

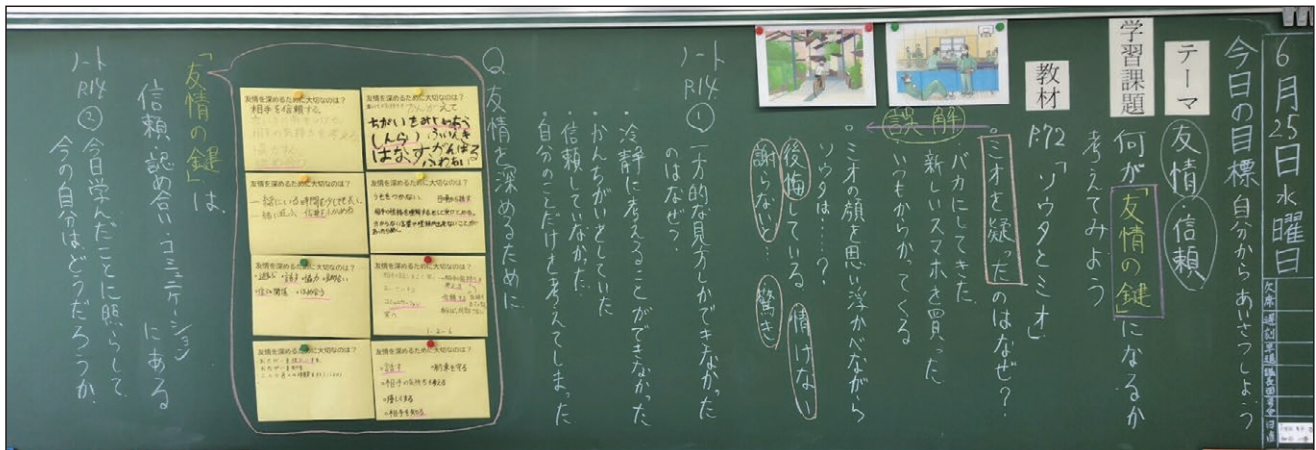
日本大学教授
渡邊 真魚 先生の



学習指導案を拝見すると、授業者の先生のまなざしを通して、子どもの心の成長を願う指導観が随所に見られ、とても温かい気持ちになります。今回は、小森先生の学習過程の中に、期待する子どもの言動を発見しました。「教材で学んだこと」がそれにあたります。ここに向かって追求していくからこそ、生徒の道徳的思考に寄り添った授業が展開できるのだと考えます。

導入の「気付く」段階(問題の意識化)から始まり、「しぼる」段階(問題場面の明確化)、「わかる・感じる」段階(道徳的価値の追求)を通して、前段で教材の中にしっかりと価値を見だし、「自己を見つめる」段階(道徳的価値の自覚)の後段にたどりつくからこそ、終末で「自己を超えようとする」段階(実践への意欲化)に入る頃には、道徳的思考に学び浸る授業が生まれるのだと共感しました。

学習活動		指導上の留意点
◎→中心発問 ○→基本発問 ☆→予想される生徒の反応		
導入	1 日常生活を振り返る。 ○日常生活で友達がいってよかったと思うのは、どのようなときか。	・学習課題に対する意識づけを行う。 ・事前アンケートを紹介することで、学習への関心を高める。
	【本時の学習課題】何が「友情の鍵」になるのだろうか。	
	2 教材「ソウタとミオ」を読み、考える。 ○動画がアップされているのを見たとき、「僕」はどうしてミオを疑ったのだろう。 ☆ふだんから自分をからかってくると思っていたから。 ☆うるさいことばかり言うから。 ○ミオは本当にからかっていたのだろうか。【問い返し】 ☆本当はアドバイスのつもりだった。 ☆劣等感、腹立たしい。 ○ミオが応援してくれていたことを知ったとき、ミオの顔を思い浮かべながら、「僕」はどのようなことを考えていたのだろう。 ☆応援してくれていたなんて驚き。 ☆申し訳ない。 ☆どうしてミオを信じることができなかったのか。 ○「僕」がミオに一方的な見方しかできなかったのはどうしてだろう。＜「道徳ノート」に記入＞ ☆ミオのことを勘違いしていたから。 ☆自分のことだけを考えていたから。 ☆友達として信頼していなかったから。 ○友情を深めるために大切なことはどのようなことだろう。＜グループごとに「道徳ノート」に記入＞ ☆相手を思いやる。 ☆信頼する。 ☆素直に言う。 ☆コミュニケーション ☆関わり	・教師が範読する。 ・「僕」がミオのことを誤解し、友達として見ることができていなかったことをおさえる。 ・「僕」がミオを信じ切れなかった理由について、「僕」が自分に自信がなかったことや、異性に対する対抗意識など、人間としての弱さが影響している点を共感的に捉える。 ・個人で考えた後、2～3人のグループで共有し、最後は学級全体での意見交流も行う。 ・グループで多くの意見を出し合った後、学級全体で共有する。 ・教材を通して道徳的価値を理解し、その理解を学びとして示すことで、本時の学習課題の解決につなげる。
展開	3 今の自分を振り返り、次のことについて考える。 ◎今日学んだことを振り返って、今の自分はどうか。 ＜「道徳ノート」に記入＞	・把握した道徳的価値をしっかりと確認し、時間を十分にとってじっくりと振り返らせる。 ・数名の生徒に発表してもらう。
	4 教師の話を聞く。	・余韻をもって学習を終える。相田みつをの詩を紹介してもよい。
終末		



4 道徳科におけるノート活用

道徳科の授業では、生徒が自己を見つめ直し、道徳的価値に気づく過程が重要である。その過程を可視化する手だてとして、「道徳ノート」の活用を重視している。生徒には、授業の導入で示された課題を踏まえ、教材から何を感じたか、どのように自己の生活と結びつけて考えたかを記述させている。

このノートは単なる振り返りではなく、評価資料としての役割も果たす。評価においては、(1) 道徳的価値の理解、(2) 自己との関わり、(3) 内省と意思表示、の3つの視点を設け、内容を見取っている。例えば、「教材の登場人物と自分を比較し、自分の弱さに気づいた」といった記述は、道徳的価値の理解と自己の課題意識の両面を捉える手がかりとなる。以下は実際の生徒の記述の一部である。

「ぼくも昔、相手の考えを理解して言葉を言えていないことがあったと思いました。次からは相手を受け止めて言葉を発したいです。」

「友達との関わり方をもう1度考え直さないといけないと思った。相手を信頼し合うことが大切だと思う。自分的にいちばん大切だと思うのは『笑うこと』だと思う。」

「ときどき、相手の気持ちを考えずにしゃべってるときがあって、もしかしたら、自分が言った言葉で

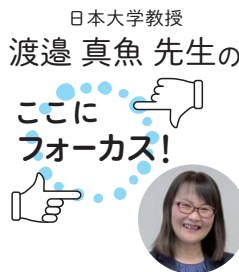
傷ついている人がいるかもしれないから、これからの自分は、相手の気持ちを考えてしゃべろうと思いました。」

このように、生徒たちは教材を通して学んだ道徳的価値を自分の生活を振り返って捉え直し、自らの課題として考えを深めることができています。道徳科の評価は、知識や正解を求めるものではなく、「変容の過程」を見取ることが重要であり、その手段として「道徳ノート」の活用は極めて有効である。今後も、「道徳ノート」を生徒自身の省察と授業者との対話の場として位置づけ、記述の工夫を重ねながら実践を深めていきたい。

5 課題と今後の取り組みについて

「問題解決的な学習指導過程」は、生徒が主体的に道徳的価値と向き合い、よりよく生きようとする力を育てるうえで有効な学習方法である。横浜市中学校教育研究会道徳教育部会では、研究と実践を積み重ねてきた。今後、この学習指導過程をより一層、生徒の道徳性の育成に有効な手立てとするためには、道徳教育の要としての道徳科の授業という視点で他の教育活動における道徳教育との関連を一層図る必要がある。

そのために、今後も、形式的な道徳的価値の理解にとどまらず、生徒一人一人が「よりよく生きる」ための価値観を自ら育むことができるよう、指導の工夫と評価の在り方について継続して研究する必要がある。



「問題解決的な学習」の「問題」とは何でしょう。教材の中に発見する問題、日常生活や地域社会で気づく問題、自分自身の中にある問題と、道徳科の時間には重なって解決しなければならない問題が潜んでいます。小森先生は、こうした問題に向き合う生徒をしっかり受け止めながら、振り返りの「道徳ノート」（記述）では「道徳的価値の理解と自己の課題意識の両面を捉える手がかりとなる」と言及しています。自ら問いに向き合い、解決した問題は、生徒の心に残るに違いありません。動機づけの原理を小森先生ご自身が実感を伴って理解されているからこそ、「問題解決的な学習指導過程」は、生徒が主体的に価値と向き合い、よりよく生きようとする力を育てるうえで有効な学習方法だと主張できるのだと思います。みなさまは、本実践をどのように受け止められましたか。

おさえておきたい！

授業力アップのための教科書・指導書活用術

小学校編

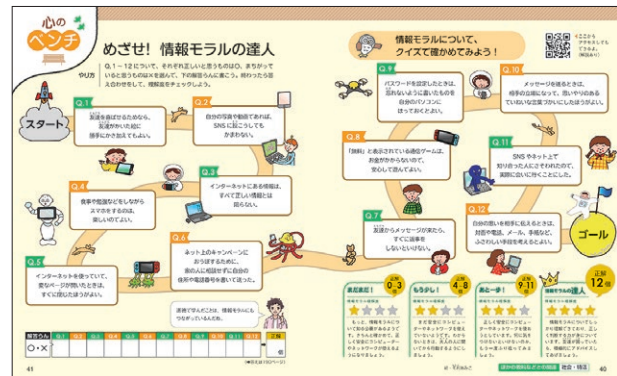
「心のベンチ」や「ぐっと深める」のページを活用して授業力アップ！

姫路市立花田小学校教頭 田村 由宏



道徳科授業での学びを深める

『小学道徳 生きる力』は、授業と関連づけて学びを深められるページが充実しています。例えば、6年の「心のベンチ」に、「めざせ！情報モラルの達人」というページがあり、クイズ形式で質問に答えていくことで、情報モラルの理解度を測ることができます。



6年p.40-41 心のベンチ「めざせ！情報モラルの達人」

このページを授業の導入で扱うことで子どもたちの興味・関心を引き出すことができます。特に、「友達からメッセージが来たら、すぐに返事をしないとイケない。」という質問を考えさせることは、教材「カスミと携帯電話」のカスミの心情理解にもつながります。この質問を使って議論をした後に教材文に入るという展開も考えられます。また、授業後に家庭で保護者と取り組ませることで、家庭におけるメディアとの付き合い方を話し合わせる機会を設けることもできます。

このように、授業中はもちろん、授業外でも活用できるのが「心のベンチ」のページの特徴といえます。日々の授業づくりの際に「心のベンチ」の活用を意識することで、より深く考えたいと思える道徳科授業を目指せるのではないのでしょうか。

次に、5年の教材「うばわれた自由」の、「ぐっと深める」のページを見てみます。ここでは、本教材での中心発問が授業の流れに沿って掲載されています。



5年p.118-119 ぐっと深める「うばわれた自由」

道徳科授業においても子どもたちの主体的な学びが求められています。しかし、教師だけが常に発問や展開を把握している授業ばかりでは、子どもたちの「考えたい」という思いは生まれにくいものです。子どもたち自身が学び方や問いを選択できる機会も必要なのです。

そこで、「ぐっと深める」のページを事前に子どもたちに紹介することで、学び方を意識させることができます。また、発問について考えさせておいたり、時間配分を決めて授業の進行も子どもたち自身で行わせたりすることもできます。このように、学び方の幅を広げられるところが、「ぐっと深める」のページの特徴です。

道徳教育を意識して、他教科・領域でも活用

「心のベンチ」のページは他の教科・領域でも活用できます。例えば、2年の「あなたのクラスのだあれだ」のページを使って、友達のよいところを見つける活動ができます。この活動は学級活動で行う「よりよい人間関係の形成」の話し合いにも活用できます。

道徳教育は、学校の全ての教育活動で行われるべきものです。他教科・領域でも積極的に『小学道徳 生きる力』を活用することで、学校全体の道徳教育に対する意識も高められます。



動物園での繁殖と性別判定

獣医師、第16代天王寺動物園長

長瀬 健二郎

動物園での動物の飼育は、決して容易なことではありません。飼育が難しい動物が多い中で、繁殖に成功するのはさらに困難です。近代動物園が誕生して約200年、どの動物園も動物の繁殖に向けてさまざまな努力を重ねてきましたが、なかなか成功しませんでした。

繁殖にあたっては、まずオスとメスを同居させる必要があります。しかし、その前提となるオスとメスの見分けが難しい動物がいます。

オオハナインコは、オーストラリア北部から南太平洋の島々にかけて広く分布する大型のインコです。全身が緑色の羽で覆われ、両脇の羽が赤色で、黄色い大きなクチバシをもっています。このインコを繁殖させようと先人たちは2羽での飼育や群れでの飼育を試みるなど、長年苦勞しましたが、成功しませんでした。その後、驚くべき事実が明らかになりました。オオハナインコはオスだったのです。メスは同じ地域に生息しているオオムラサキインコと呼ばれる、頭が真っ赤な羽で体は紫色の羽、クチバシは黒と、外見がまるで異なるインコでした。これらのインコが、実は同じ種



オオハナインコ 提供：神戸どうぶつ王国

のオスとメスであることを誰も想像すらできませんでした。

哺乳類に関してはこうした問題はないように思われがちですが、ハイエナの場合は、外部生殖器の形が酷似しているため、動物園の人間ですら外観だけで性別判定をするのは困難です。最近では、染色体やDNAの解析により性別判定ができるようになりましたが、それ以前は、判定に苦勞し、繁殖が難しい哺乳類の一つでした。ジャイアントパンダも外観から性別判定が難しい哺乳類の一つです。ある動物園では、中国から借り受けた1ペアが長年繁殖しなかったため、染色体検査をしたところ、なんと同性であることが判明したという出来事もありました。

以前は、は虫類の繁殖の成功例もあまり多くありませんでした。飼育例が少なかったことも影響していますが、そのような中でも比較的多く飼育されていたニシキヘビの繁殖例もほぼありませんでした。お客さんに見てもらうならより大きなニシキヘビを……、というのが人情です。しかし、これが繁殖に成功しなかった大きな原因でした。ニシキヘビの仲間では、メスのほうが大きくなるため、大蛇の多くがメスだったのです。この状況では、繁殖するのが難しいのも当然といえます。

繁殖一つとっても一筋縄ではいかないものなのです。



オオムラサキインコ 提供：PIXTA

道徳セミナー開催のお知らせ

各地で道徳セミナーを開催いたします。道徳の授業づくりを知りたい！学びたい！先生方をお待ちしています。奮ってご参加ください！！

島先生と考える!! 道徳セミナー in 大阪

対面開催

2025年12月21日(日)13:00～16:50(開場12:30) 大阪市内(大阪駅周辺)で開催予定

参加費500円(税込)

●授業解説(小学校)

塩家 崇生先生(兵庫県伊丹市立鴻池小学校主幹教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)

●授業解説(中学校)

大久保 広彦先生(愛知県みよし市立北中学校教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)

●講演

島 恒生先生(畿央大学大学院教授)

島先生と考える!! 道徳セミナー in 名古屋

対面開催

2026年1月12日(月・祝)13:00～16:50(開場12:30) 名古屋市内(名古屋駅周辺)で開催予定

参加費500円(税込)

●授業解説(小学校)

塩家 崇生先生(兵庫県伊丹市立鴻池小学校主幹教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)

●授業解説(中学校)

大久保 広彦先生(愛知県みよし市立北中学校教諭)
島 恒生先生(畿央大学大学院教授)

●講演

島 恒生先生(畿央大学大学院教授)

第5回日文道徳セミナー in 東北

～考え、議論する道徳の授業展開～道徳科における深い学びとは

対面・オンラインの
ハイブリッド開催

2026年2月21日(土)13:00～16:30(開場12:30) 岩手教育会館カンファレンスルーム200

参加費500円(税込)

進行・総括 渡邊 真魚先生 日本大学工学部教授

※小学校、中学校の先生方による授業実践の発表とトークセッションを行う予定です。

※申し込みは、2025年12月15日(月)受付開始の予定です。

実践発表者

末永 萌香先生(宮城県公立小学校教諭)
山田 将之先生(岩手県盛岡市立上田中学校教諭)
星 英典先生(福島県南会津町立田島中学校校長)

※内容等は変更になる場合がございます。申し込み等の最新情報は、弊社WEBサイトをご覧ください。

どうとくのひろば

読者アンケートはこちらから!



最新話(第5回)
絶賛公開中!



どうとくのひろば No. 41

日文教育資料 [道徳]
令和7年(2025年)10月14日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33777

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690